

氏名	齋藤 未希	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	母性看護学、助産学				
学位	博士（看護学）				
学歴	2014年3月埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科修了、2020年3月埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科博士前期課程（看護学専修）修了、2023年3月順天堂大学大学院医療看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2019年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教（母性・助産学領域）～現在				
所属学会（役職）	日本母性看護学会、日本助産学会、日本看護科学学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	中期中絶ケアにおける助産師の感情と関連要因	単独	第25回 日本母性看護学会学術集会、東京	○齋藤未希	2023/5	
2	中絶および中絶ケアに対する助産師の認識	共同	第37回 日本助産学会学術集会、オンライン	○齋藤未希,徳武千足,河内浩美,安藤布紀子,水野真希,佐藤優香,柁淵恵美子,大平光子,中込さと子	2023/10	
3	中絶および中絶ケアに対する助産師の思い	共同	第37回 日本助産学会学術集会、オンライン	○河内浩美,徳武千足,齋藤未希,安藤布紀子,水野真希,佐藤優香,柁淵恵美子,大平光子,中込さと子	2023/10	
4	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦シミュレーション演習前後の実習意欲の変化	共同	第5回 日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会、東京	東原亜希子,柴田由里子,山本英子,森美紀,兼宗美幸,齋藤恵子,浅井宏美,千葉真希子,齋藤未希,堀口香織,鈴木幸子	2024/2	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	科研費（研究活動スタート支援）	日本における「中絶のスティグマ」測定尺度の開発と実態調査		研究代表者	2023/9～ 2026/8（予定）	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	リプロダクティブヘルス・ライツと女性の課題	○	1	リプロダクティブヘルス・ライツの概念と関連する健康課題についての講義のため、歴史を含めた流れのわかりやすさを工夫し、日本だけでなく、世界の健康課題について伝えるよう配慮した。		
2	ジェンダーと看護	○	1	ジェンダーの概念と、それに関する看護上での健康課題について、学生が興味を持てるようなトピックを取り上げることが工夫した。考察が深まるよう、講義後半ではディスカッションの時間を設けた。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	「分娩期のケア」 胎児付属物の観察		1	根拠のある系統だった胎児付属物の観察ができるよう、デモンストレーションに加え、実施者・観察者のペアとなり観察手順の確認を行った。
2	「周産期のケア」 CTG演習		1	妊婦への声掛け・配慮をしながら一連の技術が実施ができるよう、妊婦役・助産師役の2人1組でグループ演習を行った。
3	「リプロダクティブヘルスと看護」演習		2	学生間のディスカッションが深まるよう、事前に作成資料に対するアドバイスを1人ずつ行った。
4	「母性看護学Ⅱ」 退行性変化		1	実際の観察をイメージできるような事例を設定し、訪室～観察 (関連する項目を含む) をすべての学生が体験できるよう演習設計した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	母性看護学実習		28	臨床でそれまでの母性看護学の学習成果を発揮できるよう、よい点を認め伸ばす指導方法をとった。
2	総合実習 (母性看護学領域)		13	4年間の集大成となるよう、発展的な実習ができるよう臨床側との調整を行った。
3	助産学実習Ⅱ (分娩介助実習)		2023/8～ 2023/10	1例でも多く分娩介助に関われるよう、学生の心身の健康に留意しつつ、臨床側との調整を行った。事例の振り返りの際は必ず同席し、指導者とのコミュニケーションに問題がないか、疑問点が残っていないかを確認した。
4	IPW実習		4	多職種連携の実際を学べるよう、ファシリテーターとして支持的に関わった。
5	助産学実習Ⅱ (NICU実習)		1	1日実習であったため、学生の健康状態に留意しつつ、臨床側との調整を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.4-2023.12	主指導 2名	副指導 0名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	博士研究計画書への助言 (順天堂大学大学院)	2023.10	博士課程1年の学生2名に対し、研究計画書作成に対し助言を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉県立大学出張講座	春日部緑中学校	性教育講演	2024.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	助産系同窓会運営	同窓会幹事との連絡、同窓会運営業務	2023/4～2024/3
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	実習計画調整会		2023/4～2024/3
2	大学広報活動	オープンキャンパス 母性看護学実習室担当		2023/8
3	学生支援	進路相談		2023/4～2024/3

6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	第25回 日本母性看護学会学術集会 優秀賞	日本母性看護学会	2023.5
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		